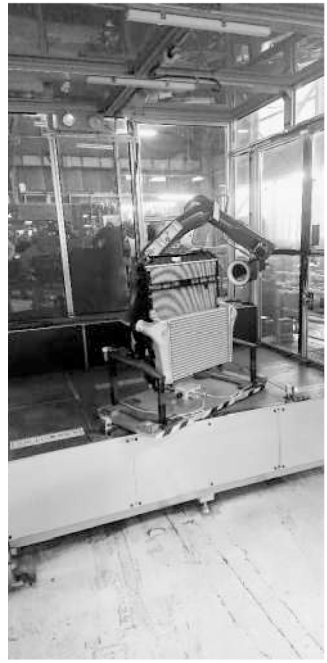


# 工場スマート化に2億円

今年度

## 東京ラヂエーター製造 生産効率底上げ

東京ラヂエーター製造は、2021年度に工場のスマート化に向けて2億円を投じる。工場の自動化やIoT（モノのインターネット）化を進めて、製品のトレーサビリティ（履歴管理）確保や生産効率の底上げを図る。働き方改革や人手不足に対応する狙いもある。まず本社工場（神奈川県藤沢市）で実施し、成果を海外拠点にも展開する考え。



東京ラヂエーター製の「EGR（排気ガス）」やエンジンの冷却造は、排ガス対策部品「再循環装置」クーラ「放熱器」「ラジエーター」の生産工程などでスマート化

▲ラジエーターの検査工程にロボットを導入した（本社工場）

を進める。EGRの工程ではトレーサビリティ関連に約3000万円を投資する。製品にバーコードを刻印できるようにして、製品ごとに生産履歴を取れるようにする。

センサーなどを活用して、設備の稼働状態の見える化にも取り組む。例えばEGRやラジエーターのロウ付け工程で使う「炉」の状態を監視できるようにする。IoT技術を活用して品質の向上を図

る。

以前から同社ではスマート化に向けた施策を進めてきた。EGRの生産工程には多軸ロボットを導入して、作業員が従来比3分の1に当たる4人となった。

「ラジエーターの検査工程でもロボットを一つに据えた。生産工程のほか、倉庫管理などの物流領域などに新しいシステムを導入する方針だ。将来的には海外工場のスマート化も視野に入れる。」